12月3日㈮～9日㈭は
障害者週間です

障害のあるなしにかかわらず“誰にとってもやさしいまち”を目指して

里山耕房くらさわの皆さま

令和3年(2021年)12月発行

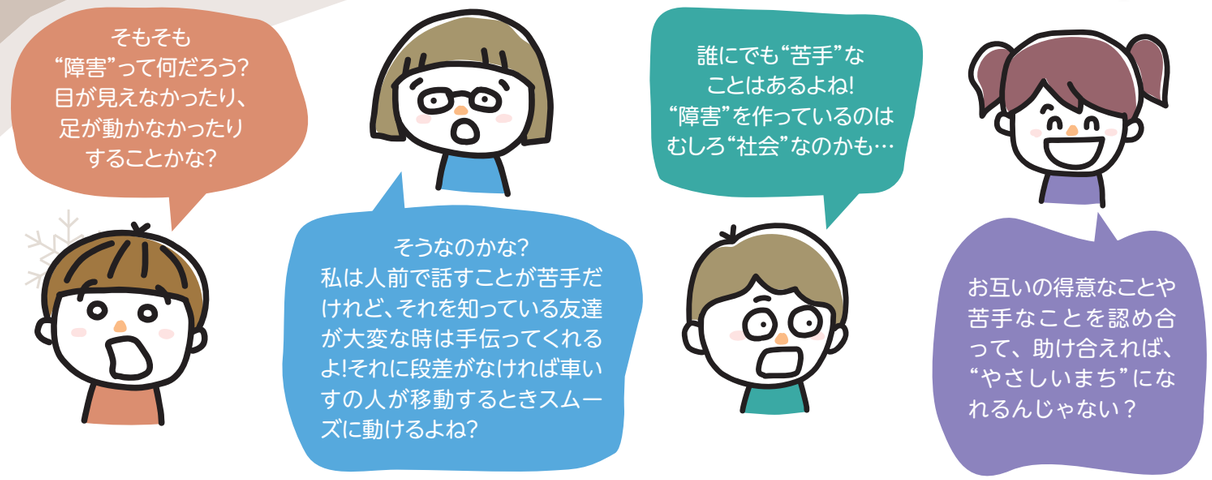
もくじ

“誰にとってもやさしいまち”って、なんだろう？ …… 2・3
さまざまなコミュニケーションや情報の伝え方について知ろう！ …… 4・5
身近な障害福祉サービス事業所を知ろう！ …… 6・7
市内の行ってみたいお店をご紹介 …… 8

“誰にとってもやさしいまち”って、なんだろう?

“誰にとってもやさしいまち”とはどんなまちでしょうか?

日野市では、令和2年4月1日に**「日野市障害者差別解消推進条例」**が施行されたことをきっかけに、障害のある方の“特別でない日常”に焦点を当て、さまざまな取り組みを紹介してきました。ここでは、改めて原点に戻り、「障害」とは何かを皆さまと一緒に考えてみたいと思います。



このように、そもそも障害と言われているものは、“個人が抱えているもの”が原因ではなく、“社会の作りや仕組み”に問題があると考えられます。また、ここでいう“社会の作りや仕組み”とは、建物や道路などのモノだけでなく、“人の心”も含まれています。

“誰にとってもやさしいまち”を実現するために、私たちは具体的にどのようなことをしていけばいいのか、考えてみましょう。

知ってほしい!

■“合理的配慮”ってなんだろう?

合理的配慮とは、障害のある方が社会に存在するさまざまなバリア(障壁)に直面したときに、その方の権利や利益を侵害することとならないよう、個々の状況に応じて解決を図るための調整を行うことです。

例えば、車いすの方が自由に移動できない場所にスロープやエレベーターを設置したり、疲労や緊張が大きい方のために仕事の時間が調整されたりと、既に社会のいろいろな場面で合理的配慮がされています。

言葉は難しいけれど、私たちもちょっとしたことから始められる取り組みがあるよ!具体的にどんなことができるのか、一緒に考えてみよう!

“誰にとってもやさしいまち”を目指して、こんなことから始めてみよう!

まずは知ろう!

■障害のある方の“特性”を知りましょう

「障害」の中にもさまざまな特性があり、“苦手なこと”もそれぞれ異なります。その特性や“苦手なこと”を理解することで、一緒に解決できる方法を考え、助け合うことができます。

■制度について知りましょう

ヘルプマーク(義足や人工関節を使用している方や内部障害や難病の方など、外見からは分からなくても、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるもの)など、周りからの配慮を必要とするために出された“サイン”を知ってください。

ヘルプマークを身に着けている方がいたら、電車やバスで席を譲るなどの行動をお願いします。

ヘルプマーク

そしてやってみよう!

まずは、困っている方がいたら「何かお困りですか?」「お手伝いしましょうか?」など、相手の気持ちに合わせた気遣いや声掛けを行いましょう。

■声かけ・サポート運動を行いました

令和2年11月に発生した、視覚に障害のある方が駅のホームから転落した事故などをきっかけに、声かけ・サポート運動が始まりました。市内の視覚に障害のある方や日野レッドドルフィンズの選手たちが、JR豊田駅で「まちなかでお困りの方を見かけたら、声を掛けてください」と呼び掛けています。この取り組みを通じて、声掛けの必要性を少しずつでも伝えていければと思います。

▲声かけ・サポート運動の様子

知ってほしい!

■地域の取り組みをご紹介

市内の障害福祉サービス事業所の利用者の皆さまと、日野レッドドルフィンズの選手が地域清掃を行いました。一人では難しいことも協力すればできます。誰にとってもやさしい、暮らしやすいまちをみんなで力を合わせてつくりましょう。

▼豊田駅周辺での地域清掃の様子

■表紙のご紹介(里山耕房くらさわの皆さま)

里山耕房くらさわは「自然と人との共生」をコンセプトに活動している生活介護事業所です。手工芸品の制作などの文化創作活動や、農園芸作業などを積極的に行っており、市のカワセミハウスの花壇の整備や清掃などにもご協力をいただいています。表紙の写真はカワセミハウスでの作業時に撮影しました。

▲清掃活動の様子

さまざまなコミュニケーションや情報の伝え方について知ろう！

ここでは、いくつかの“特性”やコミュニケーションの方法をはじめとする合理的配慮の行い方などを紹介します。

視覚に障害のある方

知ってください！ 私たちのこと

「目が見えない」といっても、人によってその見え方はさまざまです。文字を読むことができても、歩くときに周りにぶつかってしまったり、物をさけて歩くことができても、文字を読むことができない方もいます。

<主な特性>

- 目が全く見えない
- ぼやけて見える
- ある範囲だけが見える　など

子どもたちも学んでいます！

東光寺小の4年生が授業で点字を学び、実際に自分たちで点字を打つ体験をしました。

◀東光寺小の点字講座

やってみよう！ 伝え方のポイント

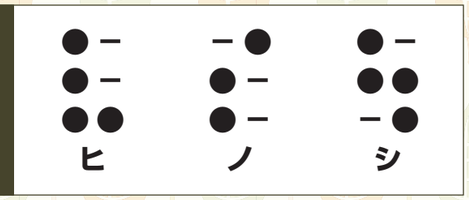
- 困っている方がいたら「何かお手伝いすることはありますか?」など声を掛けてください。
- 説明をするときは「ここ」「そこ」などのあいまいな言葉ではなく「あなたの右です」など、具体的に伝えましょう。
- 突然、腕や白杖を引っ張ると驚いてしまいます。まずは、ゆっくり近づいて、なるべく正面から声を掛けてください。

知ってほしい！ コミュニケーションをご紹介

<点字>

縦3点、横2点の六つの文字の組み合わせからなる音標文字です。駅の券売機や電化製品の操作パネルなど、さまざまなところで使われています。

「ひのし」の点字



<音声コード>

文字内容を音声コードに変換して印刷したものをスマートフォンなどで読み取り、読み上げアプリなどを使って音声化できます。

〈使用例〉

音声コード

切り欠き
（手で触ることで音声コードの位置が分かる）

言葉の理解や話し方がゆっくりな方

知ってください！ 私たちのこと

聞く・話す・読む・書くなどといった言葉を使ったり、理解したりすることが苦手な方がいます。言葉の意味をすぐに理解することが難しく、考えている間に話が進んでしまうと、どんどん内容が分からなくなってしまうことがあります。

<主な特性>

- 人の話がなかなか理解しにくい
- 言葉が出てこない
- 言葉が思い出せない　など

やってみよう！ 伝え方のポイント

- 話し掛ける時は、ゆっくり分かりやすく短い言葉で、言葉の切れ目で間を置くようにしましょう。
- 言いたい内容を推察して、「はい」か「いいえ」など簡単に答えられる質問をするようにしてください。
- 表情やジェスチャーを使ったコミュニケーションを心掛けてください。
- 絵や写真を使って分かりやすく説明しましょう。

聴覚に障害のある方

知ってください！ 私たちのこと

耳が聞こえない方、聞こえにくい方の中には、生まれつきの方、途中で聞こえなくなった方、補聴器を使えば会話ができる方などさまざまな人がいます。見た目では分かりにくいため、誤解を受けることがあります。また、何に困っているのか分かりにくく、周りの人に気づいてもらえないことがあります。

<主な特性>

- 周りの音や人の声が聞こえにくい
- ほとんど聞こえない
- 音のあるなしは分かるけど内容が分からない　など

子どもたちも学んでいます！

五小の4年生が授業で手話での簡単なあいさつや、聴覚に障害のある方とのコミュニケーションの仕方などについて学びました。

◀五小の手話講座

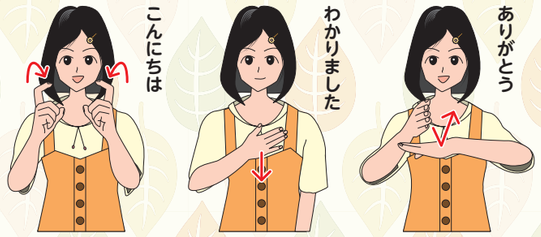
やってみよう！ 伝え方のポイント

- 何かを伝えたいときは、相手から見える場所で合図をしましょう。
- メモに書いたり、身振り手振りを交えたりして、伝える工夫をしましょう。

知ってほしい！ コミュニケーションをご紹介

<手話>

手の動きや顔の表情、視線などで表現する視覚言語です。聞こえる人が音声でおしゃべりすると安心できるように、手話で生活している方が安心して話せる言語が手話です。



精神障害のある方

- 気分の波があったり、意欲が低下することがある
- 「幻覚」を感じたり、「妄想」したりすることがある

<ポイント>

- ストレスや環境の変化が大きくならないように配慮しましょう。
- 無理をさせず、しっかりと休養をとってもらいましょう。

高次脳機能障害のある方

- 事故や病気により、脳にダメージを受けることでさまざまな症状が生じるもの
- 言葉が出にくい
- 新しいことを覚えにくい
- 感情がコントロールできず、すぐに怒ってしまう　など

<ポイント>

- それぞれの特性に合わせて、安心できる状況を作ったり、手助けをしましょう。

内部障害のある方

- 病気などによって心臓や腎臓などの体の内部に障害がある

<ポイント>

- 見た目では分かりにくいことを理解して、「何に困っているか」「どのような手助けをしてほしいか」を聞きましょう。

このページで紹介している特性以外にも、さまざまな障害のある方がいます。まずは障害のことを知って、理解していただくことで、いろいろな場面での助け合いが生まれます。みんなで助け合える“誰にとってもやさしいまち”を一緒につくっていきましょう。

コロナ禍での困りごと

- **マスクの着用が困難**
  知的障害・発達障害のある方の中には、感覚過敏といった障害特性によりマスクの着用が困難な方がいます。
- **ソーシャルディスタンスの距離を把握しにくい**
  視覚に障害のある方の中には、レジなどの行列で人と人との距離が把握しにくい方がいます。「前が1m進みましたよ」など、積極的に声を掛けてください。
- **マスクで口元や表情が見えず、相手が何を言っているか分からない**
  聴覚に障害のある方の中には、口元や表情も見て相手が何を言っているか理解する方がいます。マスクをしていると、話し掛けられていること自体も分からない場合があります。メモに書いたり、身振り手振りを交えると伝わりやすくなります。

身近な障害福祉サービス事業所を知ろう!

さまざまな障害福祉サービスを提供する障害福祉サービス事業所は、障害のある方が日常生活を行ったり、就労などに向けた訓練を行ったりする上で、なくてはならない存在です。

今回は、市内の障害福祉サービス事業所で働く職員の方々に、普段の仕事の内容や魅力などについて、お話を伺いました。

社会福祉法人　夢ふうせん
工房夢ふうせんアネックス

Q　施設の紹介をお願いします。

A　私が働く「工房夢ふうせんアネックス」は、主に重度心身障害のある方が利用される通所事業所です。中には、医療的ケアが必要な方もおられ、看護師も常駐しています。

Q　どんな仕事をしていますか?

A　利用者の生活支援が主な仕事で、食事や排せつ、日によっては入浴の介助をしています。

Q　この仕事の魅力を教えてください。

A　利用者がコミュニケーションの際に心を開いてくれたと感じる時や、自分に笑顔を向けてくれる時などにやりがいを感じています。

内藤（ないとう）　楓（かえで）さん

Q　この仕事に就いたきっかけを教えてください。

A　小さい頃から母とボランティア活動をしていました。地域にある施設の見学や、入所施設で開催されていた夏祭りのボランティアなどに参加していた経験を通して、福祉に関係した仕事に就きたいと思いました。

Q　仕事で気を付けていることや、心掛けていることはありますか?

A　急な変更が苦手な利用者もいらっしゃるので、言葉選びや安心できるような話の仕方、表情などを意識しています。また、話していることがうまく伝わらなくても、声に表情を持たせることで状況を感じていただけることもあるので、声色などを変えて話したりしています。

Q　将来、どんな職員になりたいですか?

A　親御さんたちから「この人に任せたら安心できる!!」と思ってもらえるような職員になりたいと思っています。

社会福祉法人　東京光の家
光の家新生園

Q　施設の紹介をお願いします。

A　光の家新生園は、先天的な視覚障害を主に、自閉症や知的障害など他の障害を併せもつ方を対象とした入所施設です。

Q　どんな仕事をしていますか?

A　私は作業訓練係という部署で手芸を担当しています。中には一つの作業を続けることが苦手な方もいますが、「楽しい」と感じ、できることを作品や役割という形にして自信を持ってもらえるように努めています。

Q　この仕事の魅力を教えてください。

A　支援は利用者と職員の二人三脚で、共に成長していく“共育”という考え方に近い仕事です。利用者が楽しみながら、できることが増えていく姿を見るととても誇らしく感じます。

森井（もりい）　詩都（しず）さん

Q　この仕事に就いたきっかけを教えてください。

A　元々人の心理や精神的な成長過程に興味があり、人と向き合える仕事をしたいと思い、福祉の道を選びました。

Q　仕事で気を付けていることや、心掛けていることはありますか?

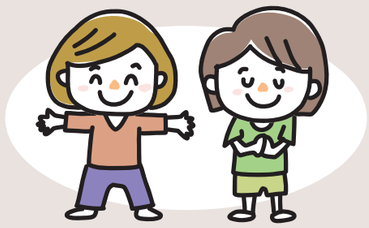
A　楽しい時や困った時など、利用者がその状況にふさわしい感情表現ができるように、先輩職員をお手本にしながら、その状況での正しい感情表現を伝わりやすく出せるように心掛けています。

Q　福祉の道を進む後輩にメッセージをお願いします。

A　福祉の世界では、社会でのさまざまな経験が現場に豊かさをもたらしてくれるため、新卒から民間企業経験者まで、幅広い方たちが働いています。自分の身近な人とどう接していけばよいのか、その人生の道しるべとしても福祉施設で働くことはとても良い選択だと思います。

●働く方々へのインタビューを通じて

お二人とも、“仕事の魅力”などで利用者の方々のことをお話しする際、とても優しい表情をしているのが印象的でした。利用者の方それぞれの“得意なこと”や“苦手なこと”を理解し、一緒に補い合いながら成長することは、障害のあるなしにかかわらず、私たちが社会で生活していく上で、とても重要なことであるということを改めて感じる機会となりました。



市内の行ってみたいお店をご紹介

“誰にとってもやさしいまち”を目指す上で、事業所の方々の協力は欠かせません。

ここでは、障害のある方への配慮として点字メニューや筆談ボードを導入している市内の飲食店を紹介します。

ぜひ、“誰にとっても行きやすいお店”に足を運んでください！

珈琲はうす　あんず村

場 高幡3-23 YSビル2F

導入したもの
筆談ボード、点字メニュー

「どなたでもゆっくり過ごしていただけるのがウチのコンセプトです」と話す店主さん。実際に点字メニューを使用した視覚障害のある方からは、「点字メニューがあったことで選ぶ楽しさがあり、幸せな時間を過ごすことができました」という声も上がっていました。

BAR&DINING RiverSide

場 新町1-19-1 ボナールレジデンス2F

導入したもの
筆談ボード、点字メニュー

点字メニューを納品した東京光の家（視覚障害者支援施設）の職員からは、「このたびは率先して点字メニュー作成のご依頼をいただきありがとうございます。安心して立ち寄れるお店が増えること、本当にうれしいです!」との声をいただきました。

中国家庭料理　麒麟坊

場 日野本町4-5-5 HSビル1F

お店の方は「筆談ボードの導入により、聴覚に障害のある方に、これまでよりも多く来店していただけるようになりました。注文以外にもさまざまな会話に使用しています」と話されていました。

導入したもの
筆談ボード、点字メニュー

※それぞれの店舗には、点字化されていないメニューもあります

知ってほしい!

【小規模の事業所などを対象とした助成金のご案内】合理的配慮の取り組みについて経費の一部を助成します（令和3年度）

助成対象	具体例	上限金額	助成率
物品の購入	・筆談ボード　・点字メニュー ・コミュニケーションボード	3万円	10分の10
工事・修繕	・段差解消工事　・手すり設置工事 ・トイレ改修工事	20万円	3分の2

※詳細は障害福祉課（☎042-514-8991）へ問い合わせを

ID 1017601

国でも事業所の合理的配慮の取り組みが義務化されます

障害者差別解消法（平成28年4月1日施行）が成立してからこれまで、合理的配慮の義務付けは国や自治体のみ（事業所は努力義務）となっていました（※）。しかし、令和3年5月に障害者差別解消法が改正され、事業所も合理的配慮の提供が義務化されることとなりました。これにより、“誰にとってもやさしいまち”に向けた取り組みが、より一層進んでいくことが期待されます。

※日野市障害者差別解消推進条例（令和2年4月1日施行）では、事業所も義務に位置付け

問い合わせ先
日野市健康福祉部障害福祉課
〒191-8686 日野市神明1-12-1　☎ 042-585-1111 代表
〈直通☎〉042-514-8991　〈FAX〉042-583-0294　✉syogaif_suisin@city.hino.lg.jp